

## 第三者評価結果

### A-1 保育内容

		第三者評価結果
A-1-(1) 保育課程の編成		
【A1】	A-1-(1)-① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的な計画は年度末に実施される、保育内容全体の振り返りや、食育計画、保健計画、行事等の振り返り内容を反映し園長が作成しています。作成の際は、小規模園の特色を生かし、食事や睡眠などの生活習慣や、遊びの際の環境設定など、保護者の意見や意向を踏まえ、家庭と二人三脚で保育実践ができるよう配慮しています。今後は、さらなる職員参画のもとで全体的な計画が作成されることが望まれます。</li> <li>・全体的な計画は玄関に掲示し、保護者との保育内容の共有を図っています。また、日頃より園だよりや電子媒体を使用したお知らせなどを通して、具体的な保育のエピソードとともに保護者へ伝えていきます。</li> <li>・全体的な計画は年度末の全職員が参加するミーティングにて定期的に評価を行い、次の作成に活かしています。</li> </ul>		
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開		
【A2】	A-1-(2)-① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・温度、室温については、日々計測し記録すると共に必要に応じて空調の調整や換気を実施しています。採光については、照明やカーテンの開閉で随時調整し、一人ひとりの子どもたちが心地よく過ごせるよう配慮しています。</li> <li>・保育所内外の設備等については、安全点検チェックリストによる定期的な点検を実施しています。また、保育室内の清掃及び消毒は徹底し、日々の衛生管理に努めています。</li> <li>・家具はクッション材で角を保護するとともに、活動内容に応じて配置を変えるなど、子どもたちが安全な環境で十分に遊びこめるよう、配置等の工夫をしています。</li> <li>・保育室内はワンフロアですが、ロールカーテンや柵で仕切ることによって、子どもたちが落ち着いて過ごせるよう配慮しています。また、保育室内に事務所を設置することで、保育者と1対1で落ち着いて絵本を読むことができるようにするなど、落ち着ける場所の確保に努めています。</li> <li>・玄関から手洗い場までの床には、丸や四角などの色とりどりの模様が貼られ、散歩から帰園後、子どもたちが楽しみながら手洗い場まで行けるよう、工夫がされています。</li> </ul>		
【A3】	A-1-(2)-② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・送迎時や面談で得られた、一人ひとりの子どもたちの情報を職員間で共有し、個人差に配慮した保育実践につなげています。</li> <li>・子どもが安心して自分の気持ちを表現できるよう、子どもの気持ちを聴く姿勢を大切にしています。保育者が一方的に伝えたり、代弁したりするのではなく、子どもが何を求めているかを様々な角度から考察し、子どもの言葉を待つ姿勢を心掛けています。</li> <li>・職員は日ごろから、子どもの手本となるよう、丁寧な言葉遣いでゆったりとかかわることを心掛けています。また、否定的な言葉ではなく、「待っているよ」「大丈夫だよ」など肯定的で、言葉で子どもが前向きに取り組めるような言葉遣いを心掛けています。さらに園長は、職員の日ごろの言葉遣いを把握し、園の実態に合わせた言葉遣いを見直す資料を作成するなどの取り組みも実施しています。</li> </ul>		

【A4】	A-1-(2)-③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活習慣が身に付けられるよう、子どもたちが一人で行える部分から始めることに取り組んでいます。できる部分から始め、保育者が十分に褒めることで自信につながるよう配慮しています。また、2歳児からは個人用のロッカーを使用し、自分で朝の支度や片づけなどができるようにするとともに、玄関には散歩の準備の際に子どもたちが座る場所が分かるよう目印をつけるなど、子どもたちが自ら生活習慣に取り組みやすいよう環境を整えています。</li> <li>・生活習慣の習得にあたっては、焦らず少しずつ取り組むことで一つずつ着実に身に付けられるよう配慮しています。見守りながらも援助が必要かどうかを見極め、子どもの意欲や達成感を妨げないよう必要に応じて声をかけるなどの取り組みを実施しています。</li> <li>・生活習慣を身に付けることの大切さについては、保護者など身近な存在への憧れや感謝の気持ちを感じることをきっかけとして関わっています。一例として、日ごろから保護者がきれいに服を畳んでくれていることを伝えるとともに、「きれいに畳んでみると気持ちが良い」「きれいに畳んでみるとうれしい」などと伝えることで、子どもたちが自ら取り組む意欲につながるよう配慮しています。</li> </ul>		
【A5】	A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが自主的に遊ぶことができるよう、玩具が取り出せる環境が設定されているとともに、年齢に応じて、保育者が子どもに遊びたいことを訊き、玩具を選んで遊べるよう配慮しています。</li> <li>・子どもの自発性が発揮できるよう、遊びの中で子どもの話に耳を傾けることを大切にしています。話の中で、子どもから発信されたことや提案などを受け入れ実現できるよう配慮しています。一例として、個々で作っていたブロックをつなげ合わせて大きな作品にするなど、子どもの提案を実現することで、自発性を発揮できるよう援助しています。</li> <li>・遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう、日ごろから戸外活動を大切にするとともに、室内ではリトミックや障がい物レースなどの活動を取り入れています。また、希望性で毎週火曜日に専門講師を招き、体操教室を実施しています。体操教室は園内ではなく、園から徒歩1分程度の場所にある広いスペースで実施することで、さまざまな身体運動ができるよう配慮しています。</li> <li>・日ごろの遊びの中で、子どもたちが協働して活動できるよう援助しています。ごっこ遊びやブロック遊びを通して、並行遊びから模倣遊び、共同遊びへと発展できるよう必要に応じた援助を行っています。</li> <li>・散歩の前には、「横断歩道では止まって、手を挙げてから渡る」などの約束を必ず伝えることで、社会的ルールや態度が身につくよう配慮しています。また散歩の際は商店街の方や近隣の方に積極的に挨拶するなどの取り組みが実施されています。</li> <li>・園周辺は、小川や緑地など自然に触れあえる場所が多くあり、日ごろから散歩に出かけることで自然と触れ合うことができるよう配慮しています。また園の庭では、朝顔やスマレなどの花を育て、花の観察や虫の観察などを行っています。</li> <li>・地域のイベントにて山車を引いたり、園のハロウィン行事の際は、近隣の方々に協力いただいて実施することや、消防署見学などを行うことで、地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けています。</li> </ul>		
【A6】	A-1-(2)-⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1日のデイリープログラムはありますが、個々の生活リズムに合わせて睡眠や食事(授乳)ができるよう環境を整えています。一例として、保育室内に事務所を置くことで、保育室だけでなく、1対1でかかわることが出来るスペースを設けています。また、個々の睡眠リズムに合わせて午前や夕方眠ることができるよう配慮しています。</li> <li>・遊びについては、保育室内だけでなく、一人ひとりの興味や関心に応じて、保育者と1対1でダンボールで作られた手作りの車に乗って遊んだり、保育室内を散策するなどの活動を楽しんでいます。</li> <li>・安心して保育士等と愛着関係が持てるよう、担当制を取り入れ一人ひとりの生活リズムに合わせてゆったりと応答的に関わることを大切にしています。また、援助する前には「口を拭くよ」「抱っこするよ」など必ず子どもに声を掛けてから行うことで安心感が持てるよう配慮しています。</li> <li>・発達過程に応じて十分に身体が動かせるよう、這い這いやつかまり立ちが出来る場所の確保や、家具等を片付けて十分に歩行が楽しめるよう配慮しています。</li> <li>・保護者との連携については、家庭での喫食状況や、提供食材の確認、食材の形状などについて共有し保育につなげています。その際に、園主体で行うのではなく、園が提案し家庭が主体として取り組めるよう配慮しています。</li> </ul>		

【A7】	A-1-(2)-⑥ 1歳以上3歳児未満の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりの子どものしようとする気持ちを尊重し、状況に応じて、子どもの気持ちが落ち着くまで待ったり、見守ったり、必要に応じて手伝うなどの取り組みが実践されています。</li> <li>・サークルや可動式の棚などを使用し、部屋の使い方を工夫することで、探索活動が十分にできるよう努めています。</li> <li>・子どもの自我の育ちを十分に受け止められるよう、職員体制の充実を図るとともに、状況に応じて園長も保育に入ることで、一人ひとりの子どもたちに丁寧に向き合えるよう配慮しています。また、子どもの声を大切にし、保育者が決めるのではなく子どもに「どうしたら良いか」を投げかけ、子どもの主張を把握できるよう努めています。</li> <li>・友だちとの関わりでは、トラブルが起きた際などは形式的な謝罪のやり取りではなく、相手の気持ちに気づけるよう仲立ちするなど、互いの気持ちを大切にする関わりを心がけています。</li> <li>・保育士以外の大人との関わりとして、毎日の調理員との関わりや体操教室の講師との関わり、また手遊びや絵本の読み聞かせによる外部講師との関わりなどが実施されています。</li> </ul>		
【A8】	A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>非該当</p>		
【A9】	A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配慮が必要な子どもに対する個別支援計画を作成し、職員間で支援方法を検討し実践しています。個別指導計画には、現在の本児の姿をはじめ、得意なこと・好きなこと・本児が安定できる内容、保護者の願い・家庭との連携、また保健センター・療育センターとの連携の項目が設けられています。項目に沿って実践された内容は、職員間で振り返り、次の目標につなげるなどの取り組みが行われています。</li> <li>・保護者との連携については、1歳から2歳に進級する際に、個別面談の中で必要に応じて発達過程と照らし合わせ配慮する点などを共有しています。また、個別で支援が必要な際は、状況に応じた適切な支援を実施する旨を伝えています。</li> <li>・必要に応じて保護者の了承を得た上で、療育センターや区の保健師と情報を共有し、適切な支援につなげています。</li> <li>・職員は、戸外活動や夕方の異年齢で過ごす保育時間など、具体的な事例をもとに、適宜検討し、必要な知識や情報の把握に努めています。</li> </ul>		
【A10】	A-1-(2)-⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭的でゆったりと過ごすことができるよう、早朝保育や延長保育の時間には保育者とのスキンシップを多く持ち安心して過ごせるよう配慮しています。また、職員数を多く配置し、全職員が一人ひとりの子どもの保育にあたるという共有認識を持って取り組んでいます。</li> <li>・少人数でしか遊ぶことのできない玩具の提供や保育者と個別に過ごす時間を設けるなど、一人ひとりの子どもの欲求に応じて過ごせるよう環境の工夫に取り組んでいます。また、一人ひとりの子どもの発言に耳を傾け、さまざまな遊びに挑戦する機会を多く持つことで、一人ひとりの子どもが主役になって遊ぶ体験ができるよう配慮しています。</li> <li>・職員間の引継ぎについては、申し送り表を通して適切に行っています。申し送り表では、体調面などに関する保健記録とその他の連絡事項などを記載し、書面とともに口頭での引継ぎを行っています。また必要に応じて職員連絡網を通して情報共有を行っています。</li> <li>・保護者との連携については、送迎時の際は担任が受け入れ及び引き渡しを行い、日中の子どもの様子を伝えています。その際に、保護者の言葉を大切にコミュニケーションを図り、小さなことでも気付けるよう心がけています。</li> </ul>		
【A11】	A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>非該当</p>		

A-1-(3) 健康管理		
【A12】	A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの健康管理に関するマニュアルとして、市が指定する健康管理マニュアルを使用しています。また毎日の視診で把握された内容を申し送り表に記入するとともに、保健日誌への記録を通して一人ひとりの子どもの心身の健康状態の把握につなげています。</li> <li>・子どもの体調悪化やけがについては、担任または担当保育者が経過と共に報告し、その後の家庭での様子について聞き取っています。けがなどの状況に応じては、園長が報告し、謝罪することもあります。</li> <li>・子どもの保健に関する計画として、年間保健計画を立てています。保健計画には年間保健目標として「子どもたちが心身ともに健やかに成長し、保育園生活を快適に送ることができる」を掲げ、月ごとの目標に沿って、行事と計画、配慮事項、家庭との連携について記載されています。</li> <li>・既往歴や予防接種の状況については、すこやか手帳にて記録し把握しています。</li> <li>・乳幼児突然死症候群への取り組みとして、0、1歳児は5分ごと、2歳児は10分ごとにチェックシートを用いて確認しています。保護者へは、家庭でもうつぶせで寝ることが習慣にならないよう協力を求めています。</li> </ul>		
【A13】	A-1-(3)-② 健康診断・歯科検診の結果を保育に反映している。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康診断、歯科検診の結果については、健診記録及び歯科健診記録、すこやか手帳にて記録され、関係職員に周知されています。</li> <li>・絵本の読み聞かせやごっこ遊びを通して食事や歯の大切さなどを伝える取り組みが実施されています。</li> <li>・健診前に保護者から事前に相談を受けた際は、健診時に医師に確認し、内容を結果表に記載するとともに口頭で伝えています。</li> </ul>		
【A14】	A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事の提供等においては、除去食提供・配膳マニュアルをもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っています。提供の際は、事前に該当する食材にチェックを入れた献立を保護者に配布し確認しています。確認された内容に対して、除去がない場合、除去があり持参食の場合、除去があり調理室内で除去食提供の場合の3つのパターンに応じて、調理室での確認、保育士同士での確認、園長の確認など具体的な手順に沿って食事が提供されています。</li> <li>・職員は、アレルギー疾患に関するミーティングでの情報共有やエピペンに関する研修などを通して必要な知識や情報を得たり、技術の習得に努めています。</li> </ul>		
A-1-(4) 食事		
【A15】	A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫している。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食育年間計画を立て、食に関する豊かな経験ができるよう配慮しています。年間計画では、「楽しい雰囲気の中で、食べることを喜び、健やかに生活するための基礎を育む」ことを年間目標・めあてとして掲げ、年齢ごとに具体的な取り組み内容を記載するとともに、食育に関する行事計画が立てられています。また、「はぐくみごはん(育食)」として位置づけ、安全でおいしい食事を提供し、子どもの健やかな成長を応援することが述べられています。</li> <li>・子どもが楽しく、落ち着いて食事がとれるよう献立に入っている食材に関する絵本や手遊びを行ってから食事を始めたり、「おいしいごはんのうた」を歌うなどの取り組みが行われています。</li> <li>・食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう苦手な物は一口食べてから、子どもに食べる量を訊いてみたり、食べてみたいと思えるまで待つようにしています。</li> <li>・子どもが、食について関心を深めるために、食材に触れる、においを嗅ぐ、野菜を栽培するなどの取り組みを行っています。育てた野菜は、塩もみなどのクッキングにつなげたり、野菜スタンプなどの活動につなげています。活動内容については、園だよりや電子媒体を使用したお知らせなどを通して保護者に伝えています。</li> </ul>		

【A16】	A-1-(4)-②	子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a
<コメント> ・一人ひとりの子どもに応じて、食材の切り方や刻み方を配慮するなど調理の工夫をしています。また、手づかみ食べができるよう、スティック状で提供するなどの取り組みも実施されています。 ・日々の残食チェック表や調理員による喫食状況の確認を通して、子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握しています。また、月に2回程度実施される献立打ち合わせにおいて、離乳食の進み具合などについて共有しています。 ・季節感のある献立となるよう、夏野菜のカレーライスなど旬の食材を取り入れた献立や、行事食として、七夕そうめんや節分会食、ひな祭りメニューなどを取り入れています。 ・日々の衛生管理については、衛生管理マニュアルや衛生管理チェック表を用いて適切に行われています。			

## A-2 子育て支援

			第三者評価結果
A-2-(1) 家庭との緊密な連携			
【A17】	A-2-(1)-①	子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a
<コメント> ・保護者との日常的な情報交換については、送迎時のコミュニケーションや電子媒体を通じたお知らせなどを通して行っています。お知らせでは、食育の様子や、子どもたちの製作など日々の活動の様子を写真とともにコメントを添えて伝えています。 ・園だよりや日々の活動写真の掲示、また個人面談や懇談会などを通して保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会につなげています。 ・日々の保護者との情報交換の内容については、申し送り表に記載しています。また、個別の面談の際は、個人面談の記録として保管しています。			
A-2-(2) 保護者等の支援			
【A18】	A-2-(2)-①	保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a
<コメント> ・子どもたちの日々の生活の様子について、連絡帳やお知らせ掲示板など、様々な方法を通して伝えています。また、送迎時の際に必要なに応じて話す時間を設けたり、保護者の意見を尊重し寄り添うことで保護者との信頼関係を築けるよう取り組んでいます。 ・保護者からの相談に応じる体制として、個人面談や懇談会が実施されています。個人面談の実施日時については、保護者の都合に合わせて、平日の送迎時に対応するなどの配慮がなされています。また、希望に応じて随時行っています。 ・保育所の特性を生かした取り組みとして、在園児を対象として、園が休みの際に、園開放や読み聞かせ会、製作など休日に親子で楽しめるプログラムを行っています。 ・相談を受けた職員が適切に対応できるよう、園長と情報を共有するとともに、職員同士で相談しながら対応できる体制が整えられています。			
【A19】	A-2-(2)-②	家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a
<コメント> ・虐待等権利侵害の兆候を見逃さないよう、送迎時の保護者との関わり方や、着替えの際の視診、歯の汚れやオムツかぶれ、子どもの表情や保護者の表情の様子などの把握に努めています。 ・虐待等権利侵害の可能性があると感じた際は、職員会議で共有、協議するとともに法人代表へ報告し、必要に応じて関係機関との連携を図る体制が整えられています。 ・虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、必要に応じて保護者に声をかけ保護者の相談に乗るとともに、保育時間の延長や代理者の迎えを可能にするなどの取り組みが行われます。また、保護者の精神的なフォローや子どもに対して食事の提供を行うなどの取り組みも行われます。 ・虐待等権利侵害を発見した場合の対応等については、虐待対応マニュアルや虐待対応ハンドブックを整備しています。			

A-3 保育の質の向上

		第三者評価結果
A-3-(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)		
【A20】	A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の保育実践の振り返りについては各種指導計画の項目にある、反省・評価にて行われています。また園長との面談の際に使用される自己評価シートをもとに、子どもへの言葉かけや子どもの人権の尊重など、具体的な子どもとの関わりについて振り返っています。</li> <li>・各職員が実施した自己評価シートは、保育内容の項目ごとに統計を出し、職員間で共有することで、互いの学び合いや意識の向上につなげています。</li> <li>・自己評価シートの統計から保育所全体の保育実践の自己評価につなげています。一例として、言葉かけの中で、援助をする前に必ず子どもに声を掛けたり、確認してから行うなどの具体的な保育実践につなげました。</li> </ul>		